生きる力を育む体験交流

岩手・陸中海岸

東日本大震災「大津波の体験と教訓」

被災地だから「伝えなければならない責任感」で迎えます

岩手県田野畑村は陸中海岸国立公園の北部に位置し、「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中に住民が漁業や酪農を営む、人口4千人ほどの典型的な農山漁村です。

とてものどかで平和な村を襲った3月11日の大津波は、約40人の死者と行方不明者を出し、そして住み慣れた家と水産施設や漁船の多くを押し流し破壊しました。

しかし、比較的少ないとされる人的な被害の理由には、防災意識の高揚や訓練などへの真剣な取り組み、そして昔から語り継がれた教訓が生かされた証しと言われています。大津波の爪痕が残る現地の姿、悲惨な現実と向き合いながら、復興へと歩む住民のたくましい姿は、日ごろ豊かさと過度の安全対策に守られた生活にいる生徒の目にはどのように映るのでしょうか。生徒自らが「生きる力」の必要性について考え、肌で感じることができる学びの現場が今ここにあります。

■組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」が受け入れコーディネート組織として各種手続きや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制により、学校や旅行会社の目的や要望に対し、迅速かつ柔軟に対応しています。また、各プログラム指導者や民泊家庭には定期的な教育訓練による品質向上を図り、海上保安庁などとの連携訓練による安全確保に日々努めています。

■民泊（ホームステイ）

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受け入れ家庭があり、約300人の子どもたちと交流が可能です。

■宿泊

400人の収容が可能なホテル羅賀荘は被災しましたが、現在は早期の復旧を目指しています。宿主との交流が可能な体験型の旅館民宿や合宿向けの公営施設など、1校1館対応や分宿スタイルなどの選択が可能です。また、宿を出た周辺が直ぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、効率的なプログラムを組むことができます。

お奨めプログラム

◆サッパ船アドベンチャーズ

津波で大きく被災しましたが、この7月から復活しました。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵が伝わります。

◆郷土料理体験

地元海産物や農産物をおかあちゃんの指導のもと、自らさばいて味わいます。食の大切さや安全性に対する意識向上の効果があります。

◆酪農体験

乳牛のエサやり、牧草地整備などの作業を通し生産現場の厳しさや生産者の生き様を学びます。作業に汗をかいた後の達成感は最良の効果です。

人気のサッパ船で漁業体験現場

生産現場の厳しさ学ぶ酪農体験

民泊家庭での夕食作り

語り継ぐ責任を持って臨む「震災復興ガイド＆語り部」ガイド

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井
〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
TEL 0194-37-1211 FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL http://www.tanohata-taiken.jp/

オピニオン

人間関係と自然対応で生きる力を育む体験交流

未曾有の東日本大震災は甚大な被害をもたらした。さらには福島原発の放射能汚染は終息に長い時間がかかりそうだ。被災地では今なお避難所生活の家庭も少なくない。東日本への教育旅行は西日本に振り替わったものも多い。

この震災で、国民はもとより、諸外国からも手をさしのべられ、多くの人々の善意と協力が被災地の人々を励まし勇気づけることになった。「ひとつになろう日本」「頑張ろう日本」などのコピーがあらゆる場面で見られるようになり、思いを寄せ、心を動かした。

そんな中で岩手県田野畑村は津波で流された家屋も多い中で、サッパ船観光を再開し、震災学習のプログラムを作るなど、いち早く復興の狼煙を上げ注目が集まる。被災地を応援する意味でも期待したい。

奥能登は07年の震災から復興し、能登半島の最先端の珠洲市などで民泊の受け入れが始まり、今後の飛躍が期待される。

春に全線開業した九州新幹線も話題に上っている。九州最南端の温泉の町、指宿市も時間距離が縮まり、南国の海のプログラムに人気が集まる。新八代駅を持つ八代でも、不知火海の漁業や農業、あるいはアウトドアスポーツなど受け入れ態勢整えた。

広島の平和学習と組み合わせが可能で広島港からわずか30分の江田島と、同じく広島から約100分の瀬戸内海ほぼ中央に浮かぶ島、大崎上島も受け入れを開始した。

その他の地域もキャリアと実績に裏打ちされた信頼される地域がそろう。多くの地域は農山漁村であり、命の源である日本の食料生産を担う現場である。

その教育力は計り知れないものがあり、そこに生きる人々との民泊（農山漁村生活体験）を通して、コミュニケーション能力を高め、心通わせ、人間関係構築能力を向上させている。

そんな理念を共有し、安全管理に力を注ぐ、「全国ほんもの体験ネットワーク」会員の以下に掲載している組織を利用してほしい。

修学旅行も、神社仏閣、名所旧跡を巡る物見遊山や、テーマパーク、遊園地を訪れる「生徒の機嫌取り」から大きく変わりつつある。大人の責任として、今こそ、この時代に生きた証となるような、人と人との交流から、心高まり、うれし涙が頬を伝うような、感動の旅にしてほしいものである。

体験教育企画　代表　藤澤安良

長野県・南信州

人の心温かく、瞳輝く時

感動体験南信州

南信州は中央・南両アルプスの間に天竜川が流れる巨大な谷であり、そこに住む人々の気質は大変穏やかです。当地域では1996年から体験教育旅行を受け入れ、2001年に公社を設立し、現在年間110を超える学生団体を受け入れております。体験プログラムは自然、環境、農業、味覚、伝統工芸、アウトドアスポーツなど多くの分野にわたり、種目数は165種目を数えております。

本物の体験は心をつなぐ一生の思い出

基本的な理念は、地域に暮らす人々の生業やありのままの暮らしの中に直接飛び込んで、援助や指導を受けながら体験者と受入者が体験を共にし、その交流を通して互いに感動し、高まり、そして人間関係の構築の好機となるものが本物の体験であると考えています。

中でも農家民泊は年々受け入れ数も増え続けており、「帰ってきたら朝ごはんを食べるようになった」「野菜を食べるようになった」「息子が久しぶりにいろんなことを話してくれた」などと保護者の方々からの御礼の言葉も数多く届いております。半日、1日、1泊と一つ一つのプログラムがゆったりとしたペースで展開され、しっかり交流することにこうしたエピソードが生まれる背景があります。

また、生徒さんを受け入れる農家の側にとってもそうした学生たちの一生懸命交流しよう、体験しようという姿勢やちょっとした言葉がけになどに感動することが多く、それが受け入れを続ける動機付けにもなっています。いわば双方にとって貴重な体験交流の場づくりともなっております。

現在農家民泊の受け入れを支える受入農家は南信州15市町村で400軒を超えており、08年度は年間69校1万500人を超える生徒さんを受け入れました。一般家庭に泊まることは、互いに気づかう心が生まれ、現在の社会に求められる人間関係構築能力を高めるには絶好のプログラムです。

今最も多い組み合わせは1日目から2日目の午前にかけて農家民泊＆農家体験、2日目の午後にアウトドアスポーツ体験を行い温泉旅館での宿泊、3日目は味覚体験や伝統工芸体験からの選択という形です。南信州の人と自然と文化を目一杯体験できる組み合わせです。

教育旅行の受け入れにあたって

現在この事業に協力いただいている方々は全体で1千人を超えており、数多くの学校団体が同時に訪れても受け入れ先が1カ所に集中することはなく、いつも新鮮な気持ちで訪れる人々を迎えております。受け入れを始めて10年を経た経験と実績を生かし、安全で教育効果の高い受け入れをすべく励んでおります。

この受け入れは、教育あるいは社会に貢献するという誇りと責任を感じ、それを大いなる喜びと捉え、これからも受け入れを続けていきたいと考えております。

南信州の風景

人と触れ合う民泊で思い出の一コマ

信州名物の五平餅作り

名人と共に渓流釣り

株式会社南信州観光公社
〒395-0512 長野県飯田市育良町1-2-1
りんごの里内
TEL 0265-28-1747 FAX 0265-28-1748
URL http://www.mstb.jp/

新潟県・上越市・十日町市

田舎だから、伝えられることがあります

越後田舎体験

越後田舎体験として受け入れをはじめて13年目となりました。私たちは自然と自然のつながり、自然と人とのつながり、人と人とのつながりを大切に考え、そのさまざまなつながりを暮らしや体験、人との交流の中から肌で、心で感じてもらえるような受け入れができればと願っています。

特に民泊（ホームステイ）では長い時間、民家の方と過ごす中で生徒が感じるものがあるようです。越後田舎体験のエリア全体で400軒以上の民家の協力を得て、民泊の受け入れを行っています。

受け入れ時期のピークは5月や7月中旬ですが、地域のロテーションを行い、心に余裕が生まれるように、楽しみの1つとして受入れていただけるよう工夫をしています。

おすすめ体験プログラム

◆農村生活体験（民泊）

各民家での暮らしを体験し、人への思いやり、生きることの大切さを学びます。

◆米作り

汗を流して米づくりを体験し、自然と人の関係や思いやる心を育てます。

◆漁業体験

地引網、魚のさばき、干ものづくり、乗船……漁師さんの普段の作業を体験します。

◆自然体験

自然の中で美しいもの、優しいもの、厳しいものなどを興味深く観察します。

だくさん多くは高齢者です。だからこそ、伝えるべきことは多いようです。

普通の田舎の風景、暮らしの中で、忘れがちな自然への配慮、人への思いやり、生きることの大切さを短い時間の中で伝えていきます。

各地域では受け入れのための研修会や反省会、あるいは視察や学校訪問なども実施し、地域の連携を図りながら、自分たちも楽しんでこの事業に取り組んでいる姿がうかがえます。これからも「楽しかった。また来てほしいね」といった気持ちが残るような受け入れを行っていきたいと思います。田舎だから伝えられることがたくさんあると思います。

民泊（ホームステイ）協力戸数　400戸×3・5人＝1400人

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。

②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。

③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。

④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

春山トレッキング

美しいブナ林でのトレッキング

漁業体験の１つ地引き網

「はさ」から稲を下ろす

民泊先で田舎暮らしを体験

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください
〒942-0411 新潟県上越市安塚722-3
（公財）雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail:taiken@yukidaruma.or.jp
URL http:www.echigo-inakataiken.jp/